

第107回リニアドライブ技術委員会議事録案

日時：平成19年12月14日(金)13:30～16:30

場所：JR東海品川ビルA棟 301会議室

出席者：委員長 小豆澤（神戸大）

副委員長 北野（JR東海）

委員 伊藤（日立製作所），岩松（鉄道総研），海老原（東横女短大），大崎（東京大），
 菊田（JST），坂本（九工大），山田（金沢大），脇若（信州大），渡辺（FDK），
 増澤（茨城大），矢野（産総研），森下（東芝）

幹事 水野（信州大），村井（JR東海）

幹事補佐 鳥居（武蔵工業大）

提出資料

- 107-1 第106回リニアドライブ技術委員会議事録案（鳥居幹事補佐）
- 107-2 リニアドライブ技術委員会名簿（鳥居幹事補佐）
- 107-3 第86回(H19年度第2回)産業応用部門研究調査運営委員会報告（小豆澤委員長）
- 107-4 半導体電力変換／リニアドライブ合同研究会報告（森下委員）
- 107-5 リニアドライブ研究会（鳥居幹事補佐）
- 107-6 平成20年電気学会全国大会シンポジウム（案）提案用紙（森下委員）
- 107-7 APSAEM08(Bangkok, Thailand)（山田委員）
- 107-8 LDIA2009(Incheon, Korea)（大崎委員）
- 107-9 平成19・20年度リニアドライブ関連各委員会予定一覧（鳥居幹事補佐）
- 107-10 LD技術委員会傘下の各委員会の資料提出スケジュール（村井幹事）
- 107-11 平成19年度リニアドライブ技術委員会活動報告（小豆澤委員長）
- 107-12 平成20年度(H20年4月～H21年3月)活動計画(2次案)（小豆澤委員長）
- 107-13 「電磁力関連のダイナミクス」シンポジウム開催の経過と計画（脇若委員）
- 107-14 多自由度モータのシステム化技術調査専門委員会解散報告書（案）（矢野委員）
- 107-15 D部門技術報告の発行・売上状況表（小豆澤委員長）
- 107-16 多自由度モータのシステム化技術調査専門委員会（MDD）活動報告（矢野委員）
- 107-17 磁気支持応用における電気・機械システム融合化技術調査専門委員会（MLV）活動報告（森下委員）
- 107-18 医用アクチュエーション技術の体系化に関する協同研究委員会（ECD）活動報告（増澤委員）
- 107-19 産業用リニア駆動システムにおける要素技術の体系化調査専門委員会（MEL）活動報告（鳥居幹事補佐）
- 107-20 新世代の電気・磁気アクチュエータ調査専門委員会（NAD）活動報告（平田委員）
- 107-21 第9回多自由度モータのシステム化技術調査専門委員会議事録（矢野委員）
- 107-22 第10回多自由度モータのシステム化技術調査専門委員会議事録／第7回新世代の電気・磁気アクチュエータ調査専門委員会議事録（矢野委員／平田委員）
- 107-23 第2回医用アクチュエーション技術の体系化に関する協同研究委員会議事録（増澤委員）
- 107-24 第3回医用アクチュエーション技術の体系化に関する協同研究委員会議事録（増澤委員）
- 107-25 第3回産業用リニア駆動システムにおける要素技術の体系化調査専門委員会議事録（鳥居幹事補佐）
- 107-26 第17回MAGDAコンファレンスin日立（増澤委員）

議事

1 議事録確認

資料107-1を用いて議事録の確認を行い、2.2「Program Comm. Chairは大崎、ISCは海老原、Howe」を「Program Comm. Co-Chairは大崎委員、ISCは海老原委員、Prof. Howe」に修正の後、承認された。

2. 報告事項

2.1 資料107-2を用いて、委員会名簿の確認が行われた。

2.2 資料107-3を用いて、小豆澤委員長より、D部門運営委について、中長期ビジョンアクションプランを策定中であること、複数の技術委員会・部門にまたがる調査専門委員会の設置が可能となったこと、100周年記念基金国際交流助成の紹介があったこと、ITS技委委員長が交代したこと等の報告が

あった。

- 2.3 資料 107-4 を用いて、森下委員より、12/6,7 に宮古島で開催された SPC/LD 合同研究会の報告があった。発表数は 20 件で、参加者数のべ 67 名であった。研究会後、見学会が実施された。
- 2.4 資料 107-5 を用いて、鳥居幹事補佐より、1/31,2/1 に電気学会本部で開催予定の LD 研究会の紹介があった。発表数は 12 件で、懇親会を実施予定である。また 2/1 午後は同所で本委員会が開催される。
- 2.5 資料 107-6 を用いて、森下委員より、MLV 委で企画している、平成 20 年電気学会全国大会シンポジウム提案の説明があった。本資料から多少の変更がある。関連して、8 月 D 部門大会のシンポジウムは MDD 委から提案することを確認した。
- 2.6 資料 107-7 を用いて、山田委員より、2008 7/24-25 に Bangkok(Thailand)で開催される APSAEM08 の紹介があった。
- 2.7 資料 107-8 を用いて、大崎委員より、2009 9/20-23 に Incheon(Korea)で開催される LDIA2009 の紹介があった。開催日が日本の 4 連休にあたるとのコメントがあった。
- 2.8 資料 107-9 を用いて、H 1 9・20 年度予定の確認が行われた。
 - (1) ECD 委：1/23 の予定を追加
 - (2) NAD 委：1/9, 3/20 の予定を追加
 - (3) 関連会合：APSAEM08, LDIA2009, 及び 10/17-20 ICEMS2008(武漢, China)を追加
- 2.9 資料 107-10 を用いて、村井幹事より、資料提出スケジュールの確認が行われた。

3. 審議事項

- 3.1 資料 107-11 及び 107-12 を用いて、小豆澤委員長より、次週提出予定の本年度の活動報告及び次年度の活動計画案について説明が行われ、一部修正があった。未提出の MEL 委報告についての確認が行われた。回転機技委との合同研究会を H21 年 1 月に検討中であるとの報告があり、小型モータ委とならば MEL 委と協賛の方向で進めることとした。10 月の研究会は、MDD/NAD 委協賛と ECD 委協賛とに分けた方が良いとの指摘があり、各委員会で検討して 3 次案に取り入れることとした。LD 研究会の年間予定として、6 月は技委直轄、7 月は TER と合同で技委直轄、10 月は ECD 委協賛と MDD/NAD 協賛の 2 回、12 月は SPC と合同で MLV 委協賛、1 月は RM と合同で MEL 委協賛とし、発表数合計 100 件程度に調整することとした。
- 3.2 資料 107-13 を用いて、脇若委員より、第 21 回電磁力シンポを 2009 年にメルパルク NAGANO(長野)で開催することを計画しているとの説明があった。案 1)5/20-22, 案 2)5/13-15 のどちらが良いかについての議論があり、低温工学会と重なることが懸念されるが、電磁力シンポを先に決定し、重ならないように先方に配慮を依頼することとし、案 1)5/20-22 に開催することとした。
- 3.3 資料 107-14 を用いて、矢野委員より、多自由度モータのシステム化技術調査専門委員会の解散報告書 1 次案が朗読され、審議された。若干の文言の修正があった。今後の問題点の記述内容について、より多自由度を前面に出した記述が望ましいのではないかと、今回は継続委員会を即設置するわけではないので、あまり気にせず、一般的に手を広げるような記述にしておけばよい、等の意見があった。整理委員会を設置したいとの希望が述べられ、本報告書に記述することとした。
- 3.4 資料 107-15 を用いて、小豆澤委員長より、技術報告の売上についての報告があった。
- 3.5 小豆澤委員長より、LDIA からの投稿論文が、海外より 10 件あったことが報告された。長い論文があるが、カテゴリーは技術論文ではなく解説とし、掲載が決定したら全額補助する予定である。国内からは是非追加で投稿されたいとの依頼があった。関連して、査読の英語フォーマットは論文委員会で検討中であるとの報告があった。
- 3.6 資料 107-26 を用いて、増澤委員より、2008 年 MAGDA コンファレンスの紹介が行われた。

4 各調査専門委員会活動報告

資料 107-16～107-25 を用いて、各調査専門委員会からの活動報告があった。

5 その他

- 5.1 LDIA の参加報告を D 部門ニュースレターに載せるべきであるとの指摘があり、技術委員長が対応することとした。 *みゆ*
- 5.2 小豆澤委員長より、各委員の任期の確認が行われ、委員長の交代を予定しており、候補者を検討中であるとの報告があった。
- 5.3 矢野委員より、科研アクチュエータの報告会が沖縄で行われたとの報告があった。

以上